

カリフォルニア米産業における米仲介業者の新たな機能

東京農業大学大学院博士後期課程 2 年・鈴木貴裕

1、はじめに

本個別報告は、カリフォルニア州の米産業における米仲介業者の米価格形成における新たな機能について考察する。事例として米仲介業者の CRE (California Rice Exchange) を取り上げる。以前は、カリフォルニアの米産業は、生産組合が中心となって価格を決定する構造であったが、近年、CRE の構築した web 上での籾取引システムによって高い価格で籾の取引が行われるようになってきている。しかしながら、2000 年以降に米仲介会社 CRE によって構築された新たな籾の買い取りシステムについての考察はなされていない。実態調査によれば、今年の世界的な穀物価格の高騰にともないカリフォルニア米の取引価格も高騰し大手生産組合員も利益確保のため CRE の取引システムを用いて籾販売を行うと言われている。この現状をふまえ本稿では、カリフォルニア州の米産業における CRE を介した新たな米価格形成システムの機能と問題点を考察しカリフォルニア州の米産業の現状 CRE の事例検討を中心に分析・考察する。特に、インタビューによる情報を基に CRE 与えるカリフォルニアの米産業構造への影響を中心に図式化し検討・比較を行い CRE の米価格形成における web による籾取引システムの機能の特徴を考察する。

2、カリフォルニア米産業における米仲介の役割

カリフォルニアの米産業は、大手生産者組合 FRC (Farmer' s Rice Cooperative)、RGA (Rice Growers Association of California) が主体の寡占市場であったが、2000 年 8 月の RGA の倒産に伴い寡占市場ではなくなった。また、従来は、大手生産者組合が決めたプール計算により収穫前から設定した相場より低い金額で生産者は、籾を生産者組合所有の精米所に販売していたが、RGA の倒産と CRE の設立により CRE による Web 上の籾取引システムである Active Tradind Floors での取引量が増大した。このシステムは、web 上で登録した、買い手と売り手が、限られた日数の内に入札と落札を行い取引されるシステムである。従来は同様のシステムは、カリフォルニアには存在しなかった。これにより今日カリフォルニア米業界では、Active Tradind Floors で主に取引される中粒種・短粒種・高級プレミアム米の価格指標になりつつある。この web には、入札された籾に対しどの程度の値が付いているのかがリアルタイムで見ることができ規則によって入札した商品を web 以外の場で価格交渉することは禁じられているため取引の透明性が確保されている。この取引システムにより CRE は米仲介会社であると同時に相場価格を形成する機能も有している。

3、まとめ

現在、Active Tradind Floors で販売された籾が個人所有の精米所や民間精米所で精米され卸売業者に販売される傾向があり、大手の生産者組合を脱退し新たに小規模な生産者組合を設立し独自に販路の開拓を行う流れが強まってきている。特に、CRE の所有者らが、中心になって設立した CRM (California Rice Marketers) は、日本への売り込みを強化する傾向にある。しかし、大手の FRC が、CRE で決定された価格より高く買い取り価格を収穫前に設定した場合、CRE での取引量減少に伴い価格形成機能は、低下する可能性がある。